

株の達人新聞

2010年3月
3月8日版

「株の達人」では、さまざまなテクニカル指標を使い、先物・オプションから個別銘柄までチャート分析を行っています。テクニカル指標を有効に活用すれば、売買のタイミングもわかりやすく、投資が簡単になると思います。ぜひ、この機会にテクニカル分析による投資を知っていただき、効率的な資産運用を行なっていただきたいと思います。

3月第1週の日経平均株価の動向と今後

3月第2週の主なスケジュール

- 8日(月)
 - 1月国際収支(8時50分)
 - 2月マネーストック(8時50分)
 - 2月景気ウォッチャー調査(14時)
- 9日(火)
 - 1月景気動向指数(14時)
 - 2月工作機械受注(15時)
- 10日(水)
 - 1月機械受注(8時50分)
 - 2月企業物価指数(9時50分)
 - 1月卸売在庫(米国)
 - 11日(木)
 - 1月貿易収支(8時50分)
 - 12日(金)
 - 先物 オプションSQ
 - 2月小売売上高(米国)

テクニカル分析

月足チャートは、60ヶ月移動平均線

はやや下向きで、株価は同線を20%以上下回っています。6ヶ月移動平均線は横ばいで、株価は同線を上回って下値支持線となっている間は上昇基調の動きです。先週も下向きの24ヶ月移動平均線と上向きの12ヶ月移動平均線の間で推移していますので、両線のどちらかに抜けるか確認が必要になると思われます。

日足チャートでは、75日 200日移動平均線共に上向きで、200日移動平均線の上に75日移動平均線があります。株価は、75日移動平均線を上回っていますので、同線を下値支持線としている間は上昇基調の動きです。短期的には、10日移動平均線が下値支持線となっている間は堅調な動きになると思われれます。10日カイリ率を注視する必要があります。



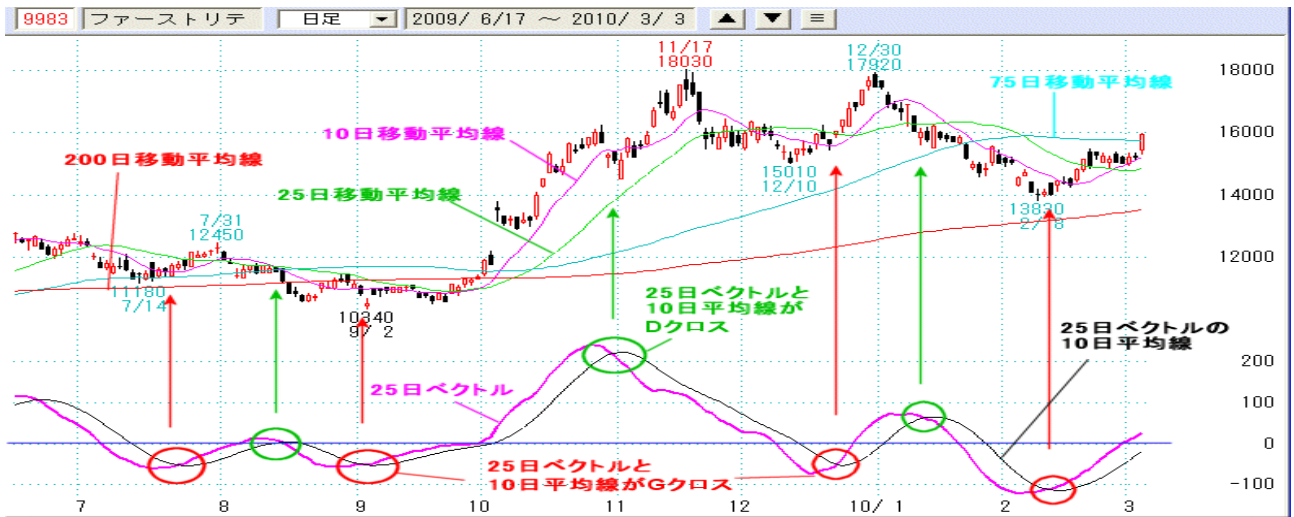
3月10日と11月27日安値を結んだ線が下値支持線となっている間は、中期的に上昇基調と思われれます。

また、11月27日と2月9日安値を結んだ線が下値支持線となっている間は上昇基調の動きと思われれます。1月15日と1月21日高値を結んだ線が上値抵抗線となっていました。5日時点で同線を上抜けましたので、反対に同線が下値支持線となれば底堅い動きと思われれます。

また、2月4日と22日高値が上値抵抗となっていました。同レンジを上抜ける動きになっていますので、目先は1月高値を意識した動きになる可能性もあると思われれます。ただその前に、1月15日高値から2月9日安値までの61.8%戻りを上抜けするか確認する必要があると思われれます。

75日線形回帰トレンドは、右肩がりの上昇トレンドで、株価は11%を上回っています。今後、中心線を上値抵抗線として、11%を割り込んだ場合はトレンド転換する可能性があると思われれます。

14日RSIは、5日時点で61%台で上向きです。2月中旬の安値から上昇していますので、下値支持線を上回る間は上昇基調と思われれます。



12日は3月SQになりますので、前後の動きには注意が必要と思われるかもしれません。また、NYダウの動向にも注視する必要があります。

ベクトル

日々の終値を基準に、株価の騰落の傾きを計算します。目先の株価変動には反応しないため滑らかな線となり、一定期間のトレンドを把握でき、相場の転換点を捉えるのに有効なテクニカル指標です。

ベクトルの目盛り表示は固定せず、銘柄によって変動します。見方は、ベクトルがゼロを中心に**プラス圏内**にあるときは**上昇トレンド**、**マイナス圏内**にあるときは**下降トレンド**と判断します。

売買方法は、トレンドに逆わず**売**買する**順張り方法**と、**トレンドとは反対に売買する逆張り方法**の両方があります。

上記のチャートは逆張り方法で、**売**買ポイントは、ゼロ以下のマイナス圏でベクトルとその平均線との**Gクロス**が**買いタイミング**、ゼロ以上のプラス圏でベクトルとその平均線が**Dクロス**が**売りタイミング**という方法です。

過去のベクトルの検証

東証1部 ファーストリテイリング (9983)を取り上げて検証してみましょう。

ベクトルは、一定期間の**トレンド**を把握する指標になりますので、ベクトルの向きが重要になります。目先の株価には反応しないため、**ベクトルの向きとは反対の動き**になることもあります。

09年7-9月は、細かくベクトルが平均線とクロスを繰り返していますのでGクロスやDクロスで売買すると結果的に**マイナス**になることにあると思われま。相対的には、ベクトルは**マイナス圏内**ですので、**下降トレンド**の動きになっています。

09年10月には、ベクトルが**プラス圏内**に入ると**株価は上昇トレンド**の動きになっています。その後、ベクトルはDクロスになって、一旦**株価は下落**、再度高値更新しています。その間ベクトルは**下降傾向**です。

つまり、10月後半にベクトルがDクロスになった時点で、**高値警戒**とゾーンになっていたことになります。ベクトルの動きとは**タイムラグ**があります。

ますが、株価はその後下落傾向になっています。ベクトルは、株価の天底を捉えるというより、相対的な相場の転換点を測る指標になります。

わからないことが出てきたら

「株の達人」では、お客様のサポートも**完全無料**でご案内しております。チャートの見方や株の達人による銘柄選択方法など、何でもご相談ください。

情報提供サービス

株の達人新聞は毎週第1営業日に日本最大のメルマガ配信サイト「まぐまぐ」にて配信しています。登録は**完全無料**。株の達人の会員の方だけでなく、どなたでも購読いただけます！

株の達人

株式会社ストック・データバンク
(営業企画部 古賀)

東京都新宿区高田馬場2-14-2 新陽ビル801
TEL: 03-3204-3727 / FAX: 03-3204-3691
メール staff@kabutatu.jp
ホームページ <http://www.sevendata.co.jp/>

株の達人新聞は情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終決定はご自身の判断 責任でなさいますようお願いいたします。